

高浜原発3号機蒸気発生器

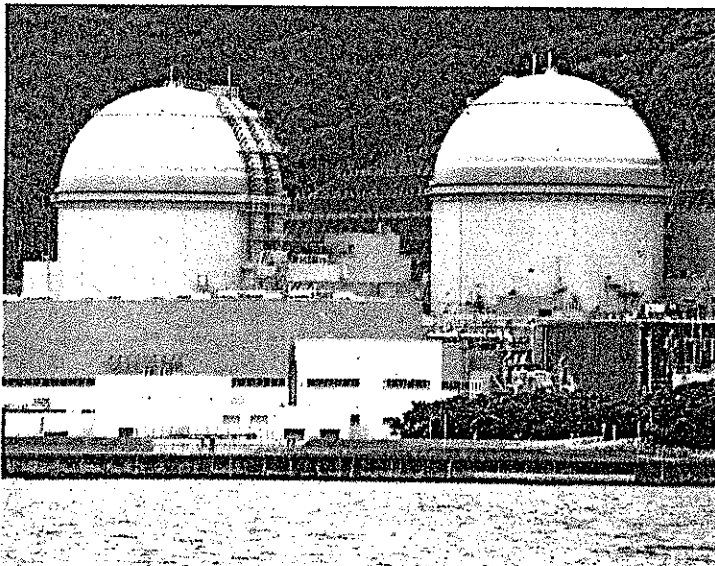
損傷半年も原因不明

高浜原発3号機（定期検査中、福井県）で1月に発見された2台の蒸気発生器細管の損傷について調査を続けている関西電力は19日までに、半年たっても原因が特定できていないと発表しました。また、これまで蒸気発生器内で見つかった金属片についても発生源が特定できず、今後調査するとしています。同じような損傷が過去に見つかった4号機は稼働中です。専門家は、徹底した調査が必要だと指摘。原因が特定されるまで運転するべきでないとしています。（松沼環）

関電のこれまでの発表 蒸気発生器（SG）の2台では、3号機は1月から（B、C）で外側（2次の定期検査で3台ある蒸気発生器の冷却水側）から損傷した

蒸気発生器 炉心で加熱された1次冷却水の熱で2次冷却水を沸騰させ、タービンを回す装置。1次系と2次系の冷却水を隔てる安全上重要な装置です。1991年の関西電力高浜原発2号機の蒸気発生器細管破断事故では、日本で初めて大量の水を注入する緊急用炉心冷却装置が作動。放射性物質が大気中に放出されました。

発生源も不特定 再稼働論外



関西電力高浜原発。左は3号機、右は4号機＝福井県高浜町

を各1片発見しました。しかし、B蒸気発生器では発見されませんでした。また、2次冷却水の排水時に事前に金属製のざるを設置するなどしましたが、異物は見つかりません。

細管の損傷続く

細管が1本ずつ発見されました。異物による傷と推定し、蒸気発生器内を調査したところ、C蒸気発生器と損傷が見つかった。新しい異物は見つかりませんでした。また関電は、見つから

った金属片が配管の接手部分などに使われるシール材の一部の可能性があると見て、類似のシール材を使用している20カ所を点検しました。しかし異常は認められなかったといえます。また、C蒸気発生器で見つかった金属片が、細管を損傷させた可能性については調査中としています。

高浜原発では、蒸気発生器細管の損傷が続いています。2018年9月に3号機で1本の細管で、19年10月は4号機で3台すべての蒸気発生器から計5本の細管で外面の損傷が見つかりました。当時も関電は異物が原因と推定しましたが、いずれも原因と考えられる異物は見つかりません。関電は2次冷却水の排水時に流出したと説明しています。

4号機も点検を

旧原子力安全委員会事務局の元技術参与・滝谷紘一氏は「原因を特定するために、損傷した細管を切り出して詳細な調査をすべきです。また、運転中の4号機でも同様の問題が懸念されます。停止して細管の点検をすべきです。いずれも細管損傷の原因が特定されるまでは稼働させるべきではありません」と話しています。